

2 各 論

(1) 出 生

ア 出生数及び出生率

出生数は55,765人で、前年の57,470人より1,705人減少した。

出生数を年次推移で見ると、昭和48年の106,008人をピークに平成2年まで減少し続け、その後増加と減少を繰り返していた。平成25年に平成18年以降、7年ぶりの増加を示したものの、平成26年には再び減少となった。

出生率は、人口千人に対し7.8で前年の8.1を0.3ポイント下回った。全国の出生率は8.0であった。(表-2)

出生率の年次推移を見ると、第2次ベビーブームの昭和46年の24.0以降低下を続け、平成元年に10.1となり、その後上昇と下落を繰り返しながら10.0前後で推移していた。平成19年から減少傾向にあり、平成25年における出生率上昇は平成18年以降7年ぶりのことであったが、平成26年には出生数と同様、低下を見せた。なお、昭和41年にみられる出生率の低下は、丙午(ひのえうま)によるものである。

出生率を全国と比較してみると、本県の出生率は平成3年以降、わずかながら全国を上回る状態であった。しかし、平成20年に全国を下回り、平成21年には同率となったものの、平成22年以降再び下回っている。(図-1)

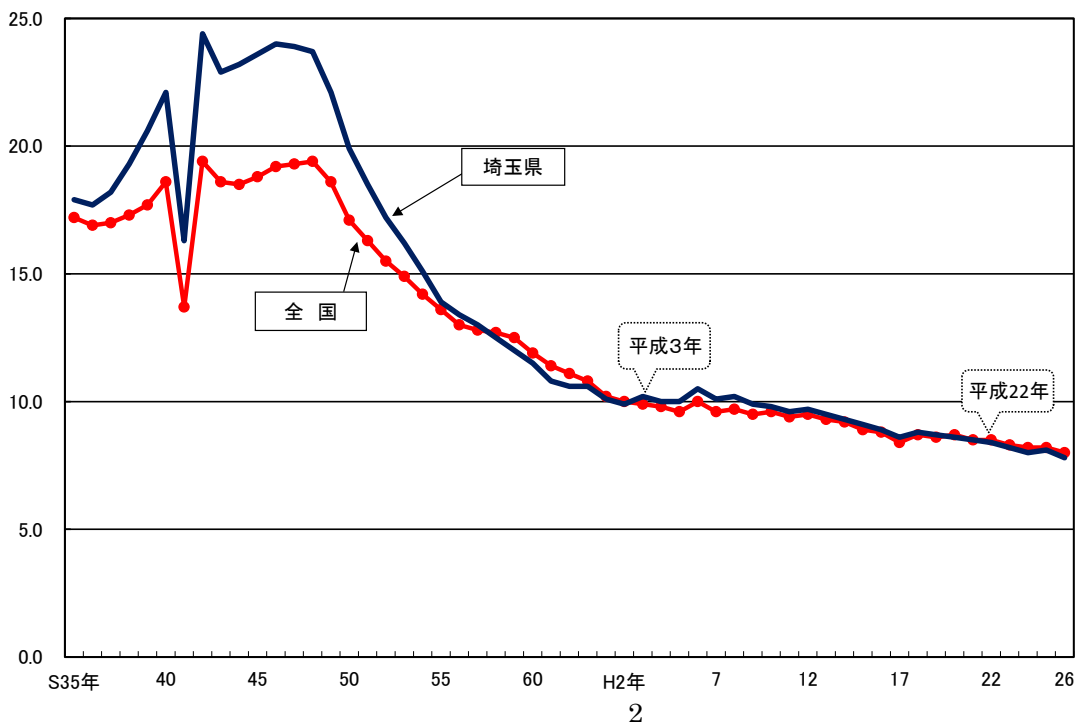
表-2 出生数及び出生率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	24	25	26
数														
埼玉県	43 421	66 585	91 113	96 033	75 090	67 260	63 299	67 750	66 376	59 731	59 437	56 943	57 470	55 765
全国	1 606 041	1 823 697	1 934 239	1 901 440	1 576 889	1 431 577	1 221 585	1 187 064	1 190 547	1 062 530	1 071 304	1 037 231	1 029 816	1 003 539
率														
埼玉県	17.9	22.1	23.6	19.9	13.9	11.5	9.9	10.1	9.7	8.6	8.4	8.0	8.1	7.8
全国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.5	8.2	8.2	8.0

注 率は人口千対である。

図-1 出生率の年次推移 (埼玉県・全国)

出生率(人口千対)



イ 都道府県別にみた出生率

都道府県別にみると、本県は、昭和49年から昭和52年までは、高率順で沖縄県に次いで第2位であった。しかし、昭和53年以降順位を落とし昭和61年には41位まで下がった。その後回復し、平成7年には4位となったが、近年は、平成24年26位、平成25年23位、平成26年23位となっている。（表－3）

表－3 都道府県別にみた出生率

	昭和60年			平成2年			平成7年			平成12年			平成17年		
	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位
高率順	全 国	11.9		全 国	10.0		全 国	9.6		全 国	9.5		全 国	8.4	
	沖 縄	17.6	1	沖 縄	14.0	1	沖 縄	13.2	1	沖 縄	12.8	1	沖 縄	11.9	1
	福 島	13.3	2	滋 賀	11.2	2	愛 知	10.6	2	愛 知	10.8	2	滋 賀	9.5	2
	佐 賀	13.1	3	佐 賀	10.9	3	滋 賀	10.5	3	滋 賀	10.6	3	愛 知	9.4	3
	宮 城	12.9	4	福 島	10.8	4	埼 玉	10.1	4	大 阪	10.2	4	福 井	8.8	4
	宮 崎	12.9	5	愛 知	10.7	5	山 梨	10.1	5	佐 賀	10.0	5	大 阪	8.8	5
	鹿 児 島	12.7	6	長 崎	10.6	6	福 井	10.1	6	兵 庫	10.0	6	神 奈 川	8.8	6
	滋 賀	12.7	7	福 井	10.6	7	福 島	10.0	7	神 奈 川	9.9	7	栃 木	8.7	7
	長 崎	12.7	8	鹿 児 島	10.5	8	大 阪	10.0	8	岡 山	9.8	8	佐 賀	8.7	8
	栃 木	12.7	9	鳥 取	10.4	9	宮 崎	10.0	9	福 井	9.8	9	広 島	8.7	9
熊 本	12.6	10	宮 城	10.4	10	神 奈 川	9.9	10	石 川	9.8	10	福 岡	8.7	10	
	埼 玉	11.5	34	埼 玉	9.9	29				埼 玉	9.7	15	埼 玉	8.6	18
低率順	富 山	10.7	1	高 知	8.7	1	秋 田	8.2	1	秋 田	7.6	1	秋 田	6.7	1
	東 京	10.7	2	山 口	8.8	2	東 京	8.4	2	北 海 道	8.3	2	徳 島	7.3	2
	秋 田	10.9	3	東 京	8.9	3	高 知	8.5	3	高 知	8.4	3	青 森	7.3	3
	高 知	11.1	4	秋 田	9.0	4	山 口	8.6	4	東 京	8.5	4	北 海 道	7.4	4
	京 都	11.1	5	富 山	9.0	5	島 根	8.8	5	島 根	8.6	5	高 知	7.5	5

	平成22年			平成24年			平成25年			平成26年		
	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位
高率順	全 国	8.5		全 国	8.2		全 国	8.2		全 国	8.0	
	沖 縄	12.3	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	11.6	1
	愛 知	9.6	2	滋 賀	9.5	2	滋 賀	9.3	2	滋 賀	9.1	2
	滋 賀	9.6	3	愛 知	9.3	3	愛 知	9.2	3	福 岡	9.0	3
	福 岡	9.3	4	福 岡	9.1	4	福 岡	9.1	4	愛 知	8.9	4
	広 島	9.0	5	熊 本	8.9	5	熊 本	8.9	5	熊 本	8.7	5
	宮 崎	9.0	6	佐 賀	8.9	6	宮 崎	8.8	6	佐 賀	8.6	6
	佐 賀	9.0	7	広 島	8.8	7	広 島	8.8	7	宮 崎	8.6	7
	熊 本	9.0	8	鹿 児 島	8.8	8	鹿 児 島	8.7	8	鹿 児 島	8.6	8
	鹿 児 島	8.9	9	宮 崎	8.8	9	佐 賀	8.7	9	広 島	8.5	9
神 奈 川	8.8	10	福 井	8.5	10	東 京	8.5	10	東 京	8.5	10	
	埼 玉	8.4	22	埼 玉	8.0	26	埼 玉	8.1	23	埼 玉	7.8	23
低率順	秋 田	6.2	1	秋 田	6.2	1	秋 田	5.9	1	秋 田	5.8	1
	青 森	7.1	2	青 森	6.8	2	青 森	6.8	2	青 森	6.7	2
	高 知	7.2	3	高 知	7.0	3	北 海 道	7.1	3	高 知	6.8	3
	北 海 道	7.3	4	福 島	7.0	4	高 知	7.1	4	岩 手	6.9	4
	岩 手	7.4	5	北 海 道	7.1	5	岩 手	7.2	5	北 海 道	6.9	5

注1 率は人口千対である。

注2 順位の算出には、小数点第1位以下を考慮。

ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では、戸田市(11.6)、朝霞市(10.8)、和光市(10.1)の順である。また、低率順では、鳩山町(2.8)、ときがわ町(3.7)、東秩父村(4.3)の順である。(表-4、図-2)

表-4 市町村別にみた出生率(高率順)

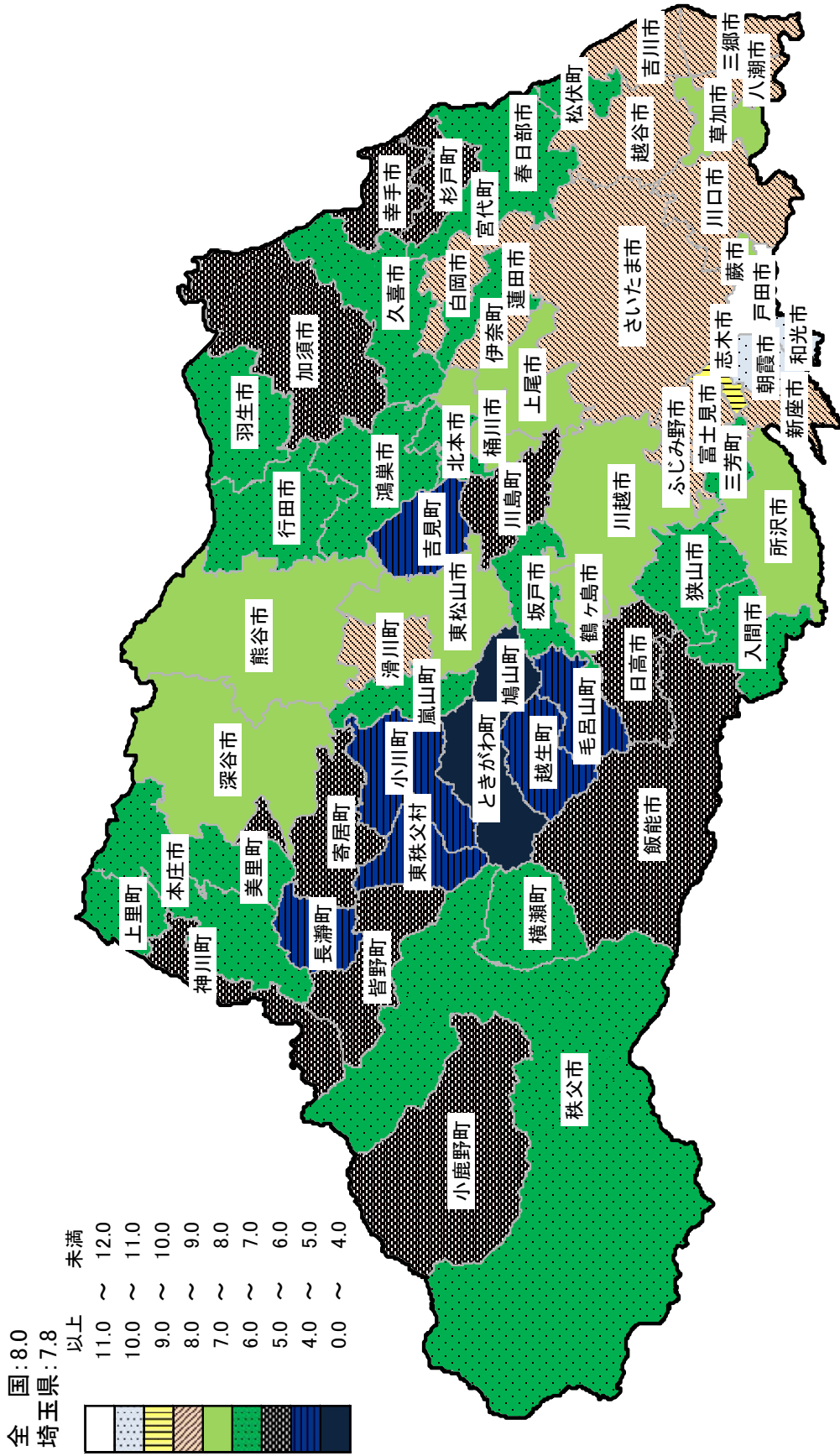
埼玉県

順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	戸田市	11.6	25	東松山市	7.0	49	寄居町	5.8
2	朝霞市	10.8	26	熊谷市	7.0	50	神川町	5.8
3	和光市	10.1	27	宮代町	6.9	51	杉戸町	5.8
4	志木市	9.4	28	坂戸市	6.9	52	皆野町	5.8
5	富士見市	8.8	29	春日部市	6.8	53	飯能市	5.7
6	八潮市	8.7	30	入間市	6.8	54	川島町	5.3
7	三郷市	8.6	31	狭山市	6.6	55	小鹿野町	5.1
8	滑川町	8.5	32	久喜市	6.6	56	長瀬町	4.9
9	ふじみ野市	8.5	33	鴻巣市	6.6	57	吉見町	4.7
10	吉川市	8.4	34	横瀬町	6.5	58	小川町	4.6
11	川口市	8.3	35	本庄市	6.5	59	毛呂山町	4.4
12	越谷市	8.3	36	上里町	6.5	60	越生町	4.3
13	さいたま市	8.3	37	秩父市	6.5	61	東秩父村	4.3
14	白岡市	8.2	38	蓮田市	6.4	62	ときがわ町	3.7
15	伊奈町	8.1	39	行田市	6.4	63	鳩山町	2.8
16	新座市	8.1	40	三芳町	6.3			
17	草加市	8.0	41	松伏町	6.2			
18	川越市	7.9	42	美里町	6.1			
19	所沢市	7.8	43	北本市	6.0			
20	上尾市	7.7	44	羽生市	6.0			
21	桶川市	7.6	45	嵐山町	6.0			
22	蕨市	7.6	46	加須市	6.0			
23	深谷市	7.5	47	日高市	5.9			
24	鶴ヶ島市	7.2	48	幸手市	5.9			

注1 率は人口千対である。

注2 順位の算出には、小数点第1位以下を考慮。

図一2 出生率(人口千対)―市町村別状況―



エ 出生順位別にみた出生の動向

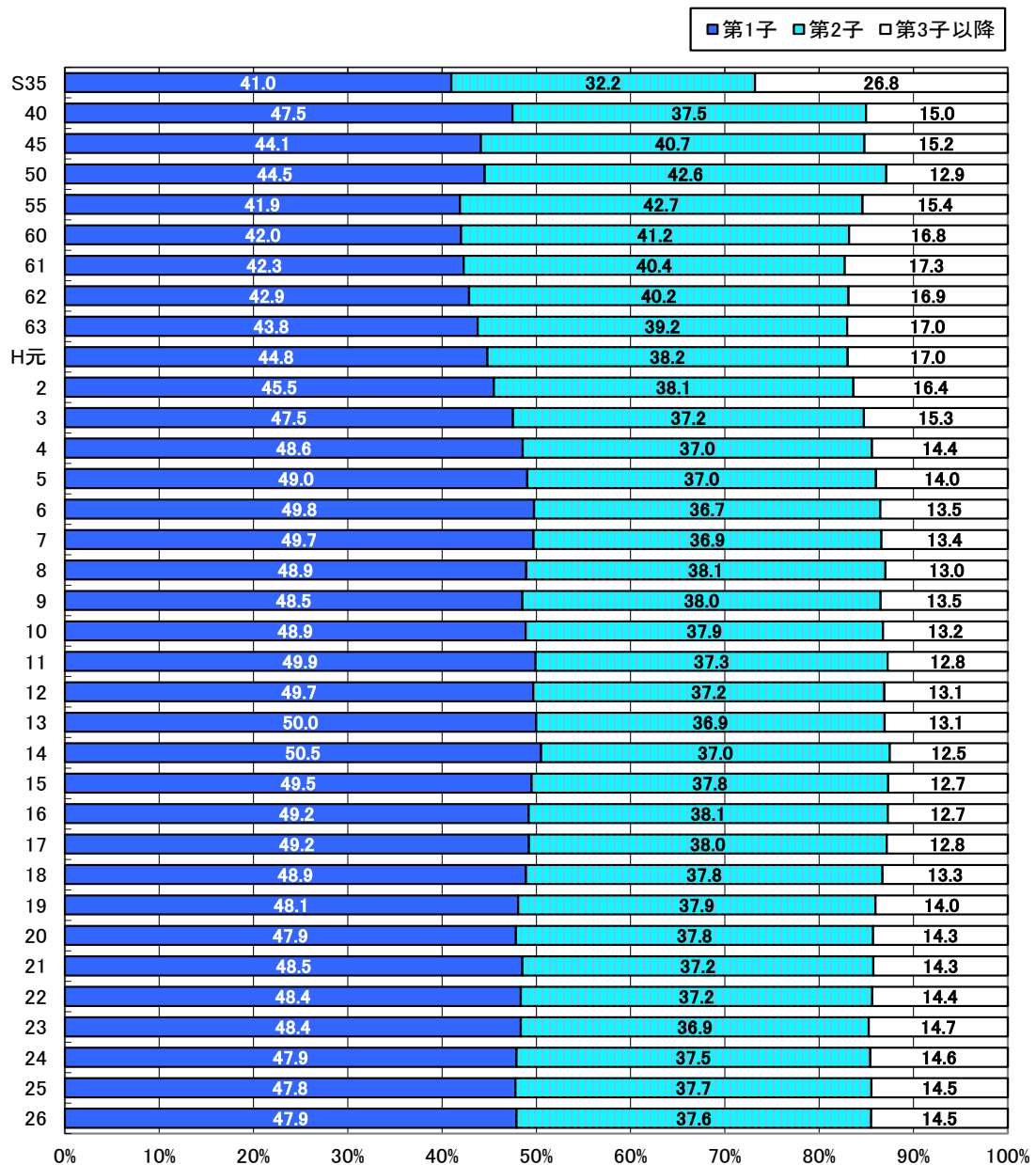
出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第1子の割合は昭和60年(42.0%)から平成6年(49.8%)まで増加を続けていた。しかし、平成7年以降は増減をくり返し、平成15年からは減少傾向にあった。近年は48.0%前後で推移しており、平成26年は47.9%で、前年の47.8%を0.1ポイント上回った。

また、第2子の割合は昭和55年(42.7%)以降減少を続けていたが、平成6年から平成8年にかけてやや増加した。その後は再び増減をくり返し、ここ数年は37%前後で推移しており、平成26年は37.6%だった。

第3子以降の割合は、昭和35年には26.8%と全体の3割ほどを占めていたものの、それ以降は15%前後で推移しており、平成26年は14.5%と、前年と同率だった。

(図-3、表-5)

図-3 出生順位別にみた出生割合の年次推移(埼玉県)



表－5 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

埼玉県

	出 生 数						構 成 割 合					
	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降
昭和 35 年	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.5	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	2.0	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.4
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.4
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
平成 元 年	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.5	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.5	37.2	12.8	2.0	0.5
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.1	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.5
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.9	37.9	11.0	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.4
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	37.0	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.4
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.5
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6
20	60 520	28 959	22 902	7 077	1 229	353	100.0	47.9	37.8	11.7	2.0	0.6
21	59 725	28 989	22 213	6 944	1 192	387	100.0	48.5	37.2	11.6	2.0	0.6
22	59 437	28 748	22 138	6 886	1 289	376	100.0	48.4	37.2	11.6	2.2	0.6
23	58 059	28 081	21 419	6 902	1 255	402	100.0	48.4	36.9	11.9	2.2	0.6
24	56 943	27 253	21 385	6 710	1 230	365	100.0	47.9	37.6	11.8	2.2	0.6
25	57 470	27 463	21 694	6 699	1 221	393	100.0	47.8	37.7	11.7	2.1	0.7
26	55 765	26 732	20 980	6 443	1 229	381	100.0	47.9	37.6	11.6	2.2	0.7

注 第5子以降には不詳を含む。

オ 母の年齢階級別にみた出生の動向

母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和51年の57.0%をピークとして減少傾向にあり、平成26年は25.6%だった。ピーク時と比較すると、全体に占める割合は2分の1を下回っている。

また、24歳以下は平成5年以降減少傾向にあり、平成26年は8.9%と昭和35年以降、初めて9%を割り込んだ。

30歳以上は増加を続け、平成15年に出生数全体の5割を、平成19年からは6割を超え、平成26年は65.5%となった。（図－4）

図－4 母の年齢階級別出生割合(埼玉県)

